

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市長公室		
	課名	企画政策課		
	係名	企画調整係		
	記入者		電話(内線)	227

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称 国際交流推進事業				(3) 事業の 優先度		B		
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体		市		
① 事業の区分	主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)		
② 施策コード	46101	(総合計画掲載ページ)		129	(ページ)			会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)							財源区分	市単独		
基本施策	4-6国や地域を越えた交流の推進(国際交流・地域間交流)							予算科目	款 2	項 1	目 11
施策	①国際化に対応したまちづくりの推進							予算書上の	国際交流推進事業費		
施策内容	1国際交流友好協会への支援							事業名称	(予算書 46 ページに掲載)		
(5) 事業期間		開始	昭和	63	年	7	月から	(8) 事務分類		自治事務	
		終了		年			月まで (力年)	根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
・国際親善姉妹都市 ・国際交流友好協会及び在住外国人を含む市民	・国際親善姉妹都市との相互理解が深まり、交流が活発になる。 ・国際交流友好協会の各種事業を支援することにより、市民の国際理解及び在住外国人と市民との相互理解が深まる。 ・国際化に対応した多文化共生社会が推進される。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
国際親善姉妹都市との交流 ・産業協力促進事業(メーサイ市からの介護福祉サービス調査団、ゴミ・下水処理システム調査団受入) 国際交流協会への支援 ・食文化体験講座、国際交流広場の開催 ・日本語教室 ・視察研修等(国内、国外を隔年) ・在住外国人への支援	昭和63年、結城市の国際交流を進める上で、柔軟な対応ができる任意の民間団体の設立が有効であることから、結城市国際交流友好協会を設立されたことにより、支援が始まった。 ベルギー王国メッヘレン市とは平成8年10月、タイ王国メーサイ市とは平成24年11月にそれぞれ、国際親善姉妹都市を提携した。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
国際親善姉妹都市との交流は、ベルギー王国メッヘレン市とは先方の意向もあり、直接の交流は現在停滞している。現在は、タイ王国メーサイ市との交流が主となっている。メーサイ市とは、農業分野に代わる交流として、ゴミ・下水処理システム調査団受入、スポーツ指導者の派遣等を検討していく。 国際交流友好協会については、市内在住の外国人の増加や市民の国際化の推進、さらなる国際交流事業の展開のため、平成28年度中の法人化を目指す。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映		
実施計画								
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）		
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度		
(1) 事務事業費の コスト	賃金	1,188	1,188					
	報償費	0	0					
	旅費	0	349					
	需用費	22	26					
	負担金	95	125					
	補助金		30					
	合計	1,305	1,718					
	財源	国庫支出金（千円）						
県支出金（千円）								
地方債（千円）								
その他特定財源（千円）								
一般財源（千円）		1,305	1,718					
合計（千円）		1,305	1,718					
補助・起債制度名								

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	国際交流広場の開催	目標値	回		3	3	3	3
		実績(見込)値		2	3			
		目標値	回		1	1	1	1
		実績(見込)値		1	1			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	PR回数(メッヘレン市)	目標値	回		3	3	3	3
		実績(見込)値		1	3	3	3	3
		達成率		33.3 %	100.0 %			
	交流事業の実施(メーサイ市)	目標値	人		1	1	1	1
		実績(見込)値		1	1	1	1	1
		達成率		100.0 %	100.0 %			
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
姉妹都市との国際交流事業や在住外国人に対する多文化共生事業などを、より柔軟に、積極的に展開するため、国際交流友好協会の法人化を目指し、新たな組織づくりに向けて調整を行った。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	多文化共生社会の推進のため、必要性の高い事業である。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	基本的には行政が行うべき事業である。				
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	現在の手法が一般的ではあるものの、市民レベルでの交流促進を図るための方法を検討する必要がある。				
効率性	コスト効率 人員効率	C	改善の余地がある	国際交流友好協会への支援は、実質的な運営を事務局が行っており、全体的に考えると改善の余地がある。				
公平性	受益者の偏り	C	偏りがある	市民の中で国際交流への関心に温度差がある。				
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	地域住民と在住外国人とのより一層の交流促進が望まれる。				
進捗度	事業の進捗	A	順調である	現時点でできる範囲での姉妹都市交流、国際交流友好協会への支援は順調である。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
国際交流友好協会への支援は在住外国人への支援に繋がるものであり、必要ではあるものの、協会自体の活動は事務局主導となっており、協会員が主体的に活動できていない。 また、市民のなかでも本事業への理解、認識にバラつきがあるため、積極的にPRする必要がある。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
国際親善姉妹都市との交流が一過性なものとならないよう、交流の更なる強化を図る必要がある。メーサイ市との交流については、介護保険システム、ゴミ・下水処理システム、青少年のスポーツ交流等の分野で視察団の受入れや事業の調整を進める。国際交流友好協会への支援は継続して行い、活動の活性化を図るため法人化を進めるとともに、協会員が主体的に活動できる方法を検討していく。また、国際交流友好協会を中心として、協会主催のイベントへの参加依頼や日本語教室等の情報提供を積極的に行い、在住外国人への支援とともに、地域住民と在住外国人との交流を促進する。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)		注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)		東京オリンピックの開催等もあり、さらなる国際化へ取り組みが必要である。国際姉妹都市との交流や多文化共生事業を積極的に展開することにより市民の国際感覚を養う。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				